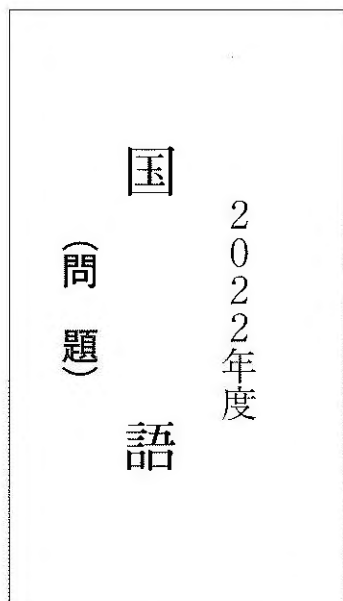




〈R04162018〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

コロナ禍の中、奇妙なことが進行している。コロナ禍によって、経済成長は止まった——というより激しくマイナス成長に転じた。二〇二〇年のGDPの成長率は、大きくマイナスになるだろう、とIMF(国際通貨基金)は推計している。

主要国の中で、プラス成長が推計されているのは中国のみ(二・三%)である。コロナ禍においては、失業率も高い。とりわけアメリカの失業率は、著しく高い。これらのことに關しては、驚きはなからう。感染症対策として、経済活動の大半を停止したのだから、当然のことだ。

奇妙なことはその先である。^①なぜか株価が下がっていないのだ。むしろ、上がっている。株価も、パンデミックがヨーロッパやアメリカに広がり始めた当初の段階、つまり二〇二〇年三月には暴落した。しかし、その後、V字回復している。

二〇二〇年末の時点で、ダウ工業株三〇種平均は、一年前の水準を、つまりコロナによるパンデミックが始まる前の水準を超えている。ナスダック指数はもつと極端だ。やはり、三月には一時的に急落するが、V字回復以上の反発を見せ、夏には、コロナによる株価の一時的な暴落の前よりも一〇%以上高くなり、その後も上昇を続けた。二〇二〇年末には、コロナ前の最高値よりも三〇%以上高くなっていた。アメリカの株価だけではない。日本の株価の推移も、これらとまったく同じギ跡をたどっている。すなわち、日経平均株価指数も東証マザーズも、二月から三月にかけて一時的に急落するが、その後、V字回復して、二〇二〇年のうちに、コロナ前の水準を大きく超え、二〇二一年二月にはバブル時の高値に追いついた。

GDPは下がり、失業者も増え、多くの人が収入を減らして、消費も冷え込んでいるのだから、経済は基本的には悪化しているはずだ。しかし、その経済の状態の指標であるはずの株価が上がっている。どうしてなのか。

コロナ危機による経済の破綻は、二〇〇八年のリーマンショックのときよりもダメージがはるかに大きい。リーマンショックの影響がはつきりと出た二〇〇九年の世界全体のGDPの成長率はマイナス〇・一%である。二〇二〇年の落ち込み(マイナス三・五%)の方がはるかに大きい。コロナ危機による破綻は、一九二九年の大恐慌のとき以来の、いやそれ以上の損失であったと言われている。

しかし、リーマンショックのときも、また大恐慌のときも、破局はとりわけ株価の暴落と長期にわたる低迷というかたちで現れていた。リーマンショックのときには、日経平均株価が、ショック前の水準に戻るまでに、四年半の時間がかかっている。その間、株価はずっと低いままで、なかなかとの水準にまで回復しなかった。さらに大恐慌のときには、はるかにひどかった。ダウ工業平均株価が、一九二九年の水準に戻ったのは、第二次世界大戦が終わり、さらに九年が過ぎてからのこと、つまり一九五四年である。株価は、なんと四半世紀も、恐慌前の価格に戻ることができなかったのである。

ところが、現在のコロナ危機においては、株価は**ケン調**^b以上である。パンデミックは終わっていない。しかし、株価はパンデミック前よりもすでに高い。株価は——一瞬の暴落を除けば——、パンデミックなど存在していないかのよう^aに推移している。もちろん業種によつては(たとえば航空関係)、株価も大きく下がっているが、全体としては、株価は下がっていない。このことは、コロナ危機が、リーマンショックや大恐慌よりはまだマシということを意味しているのだろうか。GDPは下がっても、株は上がっているのだから、少しはよかった、と考えるべきなのか。

そうではない。逆である。株価が当然下がるべきときに上がるということは、単純に株価が下がるよりも悪い。もちろん、株価が上がる直接の原因は、日銀を含む各国の中央銀行の極端な金融緩和にあることは明らかだが、株式というものの本来の性格を思えば(それは会社の事業のための出資の一形態ではないか、どうして会社の活動が全体として縮小しているのに株価だけ上がるのか)、あるいは金融緩和の目的を思えば(どうして投資も消費も活発にならずに、しかも貧困に苦しんでいる人がたくさんいるのに、金が残っているのか)、この状況は**A**。実のところ、株価の上昇は、^②集合的で徹底した「否認」のメカニズムが働いていることを示しているのだ。何が否認されているのか。破局の事実が、である。何の破局か。資本主義そのものの破局である。

これは、沈没することが確実になった船に乗っている者が、その事実を否認し、船の中に留まるときの心理と同じである。資本主義という船が沈みかけているように見える。しかし、ほんとうに資本主義そのものが破綻したら、そのこ

とによる犠牲はあまりにも大きすぎる。このとき否認が生ずる。「資本主義は普通に働いている、という想定で行動しよう」と。こうして、实体经济の裏づけなしに、株が普通に売買されることになる。

株が上がっているという事実、とりわけコロナ禍が最も過酷だったアメリカの株が上がっているという事実は、ある徹底した執着を示している。資本主義への執着である。資本主義を手放すことができない、と。

資本主義はしばしば、貪欲と享楽のシステムだと考えられている。しかし、これは、資本主義に対する根本的な誤解である。資本主義の特徴は、むしろ **B** であり、享受の断念だ。利益を得たとして、その分をすべて消費してしまえば、資本主義では勝者になることはできない。獲得された利益はあらためて投資されなくてはならず、十全な享受、完全な満足は、そのたびに先延ばしにされなくてはならない。資本主義は、このような行動様式を身につけた者だけが生き延びられるシステムである。

資本主義は、階級という格差を必要とする。市場は競争の場なので、成功する人と失敗する人、勝つ人と負ける人がいる、という単純な事実が階級をもたらしているのではない。階級なるものをもたらす究極の原因は、資本主義がキリスト教（プロテスタンティズム）から継承した「救済」の構図にある。

資本主義というシステムに参加している者は皆、自らが救済されることを——具体的には利潤を得て裕福になることを——前提として先取りしつつ行動する。しかし、救済は定義上、一部の選ばれた者の救済である。全員が救済されるならば、それはもはや救済ではない。誰もが神の国に招じ入れられるならば、神の国に何の意味があるのか。

③ 予定説的な終末論の構成が機能するためには——そうした終末論の世俗化されたヴァージョンが実効性をもつためには——だから、資本主義というシステムは確実に、ごく一部の人が救済され、大半の人が救われていないようだが、いうことを人々に得心させなくてはならない。利潤（剰余価値）をわがものにし、救済される側に入るのがブルジョワジーであり、サク取され、呪われる側に組み入れられるのがプロレタリアートである。すべての人を、未来における救済へと誘惑するためには、一部の人が救われる階級的な格差を維持しなくてはならない。プロレタリアートは、禁欲と自己犠牲だけを実行し、救済はされなかった人々だと言うことができるだろう。

さて、ようやく本来の問いに答えられる地点に到達した。パンデミックの渦中であって、誰もが全地球的な規模の普遍的連帯の必要を理解したのに、どうして、実際にはこうした理解とは逆行することが起きているのか。連帯どころか、国民国家は利己主義をあらわにしてふるまい、階級間の格差も拡大している。それはどうしてなのか。これが疑問であった。われわれが資本主義を手放すことができないからだ、というのが回答なのだが、どうして手放せないのが重要である。

コロナ危機の最も厳しいとき、つまり「緊急事態」の中で、われわれがなさなければならなかったこと、なすように求められていたことは何であったか。それは、経済活動のほぼトータルな停止だった。後に経済を動かすために、現在を禁欲することだ。ところで、資本主義とは、基本的には、永続的な禁欲のシステムであった。そうであるとすれば、パンデミックの危機の中で求められていたことは、まさに、資本主義の **C** だったことになる。

甲

資本主義の通常の作動の中でも、世俗内禁欲の厳しい労働を求められながら、結局、自分は救済された、救済されつつあるという実感をもてない人々もいる。それが、プロレタリアートであった。そうだとすれば、緊急事態のもとでの自粛・禁欲とは、すべての人がこのプロレタリアートの境遇に置かれるのと同じである。全員がただちに貧しくなると言っているのではない。そうではなく、富裕層でさえも、禁欲と救済との関係において、貧しいプロレタリアートの場合と同じ形式の境遇に置かれる、ということだ。

救済の幻想をとりはらって、端的な無期限の禁欲に服すること。これがコロナ危機の中で求められたことなのだが、こうした態勢は十分に長く機能するだろうか。もちろん、機能しない。禁欲がいつまでも続くのは、救済の約束があったからなのだから。

ここから、あの株式市場の不可解な状況において露骨に示されているような執着、「資本主義は死につつあるわけではない。今でもまったく健康だ」というあの否認が出てくる。経済活動から全面的に撤退するような禁欲は、資本主義的な救済について人々が強い確信をもっていなければ不可能だ。資本主義を（ほぼ）否定するような経済の停止は、資本主義を前提にせざるをえない。これは、むしろ、端的な矛盾である。

それゆえ、結局、十分に徹底したコロナ対策は、不可能だ、ということになる。ここで「十分に徹底したコロナ対策」と言ったとき、そこには、将来的には世界共和国へとつながるような普遍的連帯の準備ということも含まれる。あるいは、階級の格差と分断という形式で出現する救済の幻想を放棄することまた、含まれる。普遍的連帯の必要性は誰でも容易に理解できるのに、そうした方向への歩みが一向に生じない究極の原因は、以上の点にある。

(大澤真幸『新世紀のコミュニズムへ』より)

問一 傍線部 a・b・c のカタカナを漢字で表現したとき、同じ漢字をカタカナの部分に用いるものを、それぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

a キ跡

イ キ本的 □ 分キ点 ハ キ定に従う ニ 常キを逸する ホ キ人変人

b ケン調

イ スコやか □ カタイ守備 ハ 月がカかる ニ トぎ澄ます ホ ケワしい顔

c サク取

イ 乳をシボる □ 縄でシバる ハ 身をケズる ニ 首をシメる ホ 岩をクダく

問二 傍線部①「なぜか株価が下がっていないのだ」とあるが、本文に述べられている理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 日銀を含む各国の中央銀行の極端な金融緩和によって貨幣の価値が下がり、インフレが進行しているから。
□ 実際には、市場にとってコロナ危機の被害はリーマンショックや大恐慌ほど大きなものではなかったから。
ハ 「資本主義は普通に働いている、という想定で行動しよう」という心理を多くの人々が抱いているから。
ニ 資本主義はもともと貪欲と享楽のシステムで、誰もがより大きな利益の獲得を目指すのが常だから。
ホ 資本主義は、十全な享受、完全な満足を先延ばしにする行動様式を身につけた者だけが生き延びるシステムだから。

問三 空欄 A に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ どう見ても倒錯している
□ ある意味では反復である
ハ 確かに肯定的ではない
ニ 明らかに逃避的である
ホ おそらく迎合の結果である

問四 傍線部②「集合的で徹底した「否認」のメカニズムが働いている」とあるが、本文に述べられているそのメカニ

ズムの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ コロナ危機の中では、すべての人を未来における救済へと誘惑するために、一部の人が救われる階級的な格差が維持される。

ロ コロナ危機の中では、救済の幻想をとりはらって、端的な無期限の禁欲に服することが求められる。

ハ コロナ危機の中では、富裕層でさえも、禁欲と救済との関係において、貧しいプロレタリアートと同じ境遇に置かれる。

ニ コロナ危機の中では、階級の格差と分断という形式で出現する救済の幻想を放棄するほかない。

ホ コロナ危機の中では、資本主義を否定するような経済の停止は資本主義の存続を前提とせざるを得ない。

問五 空欄Bに入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 投資

ロ 禁欲

ハ 格差

ニ 救済

ホ 競争

問六 傍線部③「予定説的な終末論の構成」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 資本主義社会の市場は欲望を助長する競争の場なので、成功する人と失敗する人、勝つ人と負ける人がいることをいう。

ロ 資本主義にはキリスト教から継承した「救済」の構図があり、行いが正しければ、誰もが神の国に招き入れられることをいう。

ハ 資本主義に参加する者は、最終的には皆が利潤を得て裕福になることを前提として行動していることをいう。

ニ 未来における救済へと誘惑するために、一部の人がだけが救われる階級的な格差が維持されていることをいう。

ホ 誰もが全地球的な規模の普遍的連帯の必要を理解したのに、われわれは資本主義を手放すことができないことをいう。

問七 空欄Cに入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 否定

ロ 得意技

ハ 緊急事態

ニ 終末論

ホ 幻想

問八 空欄甲には次の五つの文が入る。正しく並べたとき三番目に来る文を一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 本来の資本主義との違いが、である。
- ロ しかし、ひとつ、重要な違いがある。
- ハ (実際にはやってこない) 救済が確実に待っているという幻想が、である。
- ニ しかし、コロナ禍の緊急事態の中で求められている自粛・禁欲に対しては、そのような幻想は与えられない。
- ホ 述べてきたように、禁欲、つまり現在の満足の断念がいつまでも継続するためには、来るべき救済——資本主義的には将来の利潤——の幻想が必要だった。

問九 傍線部④「十分に徹底したコロナ対策は、不可能だ、ということになる」とあるが、本文に述べられている理由

として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ コロナ対策には将来的に世界共和国へとつながる普遍的連帯の準備ということも含まなければならないが、それは実現不可能であるから。
- ロ 富裕層でさえプロレタリアートの場合と同じ形式の境遇に置かれるため、資本主義的な救済について人々の不安を掻き立てるから。
- ハ 資本主義を否定するような経済活動からの全面的な撤退は、逆に資本主義を前提にせざるをえず、根本的に矛盾しているから。
- ニ 緊急事態のもとでの自粛・禁欲は、すべての人がプロレタリアートの境遇に陥るのと同じで、資本主義の崩壊に繋がるから。
- ホ ほんとうに資本主義そのものを手放したら、そのことによる犠牲はあまりにも大きいことが証明されているから。

問十 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ コロナ禍によって経済成長は止まったにも関わらず、株価が下がっていないのは、資本主義というシステムが強靱で不滅だからである。
- ロ 株価が当然下がるべきときに上がることが単純に株価が下がるよりも悪いのは、資本主義の限界を露呈しているためである。
- ハ 实体经济の裏づけなしに株が普通に売買されるのは、コロナ危機の中では獲得された利益があらためて投資されなくてはならないからである。
- ニ 経済活動のほぼトータルな停止は、後に経済を動かすために現在を禁欲することを意味し、論理的にも心情的にも本来の資本主義の姿と対立している。
- ホ 普遍的連帯の必要性は誰でも理解できるのに、そうした方向への歩みが生じない究極の原因は、われわれが資本主義を否定できないことにある。

(二)

次の文章は、西行法師が讃岐国白峰に、崇徳上皇の陵を訪ねてゆく場面である。この文を読んで、あとの問いに答えよ。(なお、設問の都合上、文章および用字の一部を改めている。)

日は入りしほどに、山深き夜のさま常ならね、石のゆか木の葉の衾ふしいと寒く、神清しんすみ骨冷えて、物とはなしに凄まじきこちせらる。月は出でしかど、茂きが林は影をもらさねば、あやなき闇にうらぶれて、眠るともなきに、まさしく「円位円位」とよぶ声す。眼をひらきてすかし見れば、そのさま異なる人の、背高く瘦せおとろへたるが、顔のかたち着たる衣の色紋いろあざも見えて、こなたにむかひて立てるを、西行もとより道心の法師なれば、恐ろしともなくて、「ここに來たるは誰ぞ」と答ふ。かの人いふ。「さきによみつること葉のかへりこと聞こえんとて見えつるなり」とて

「松山の浪にながれてこし船のやがてむなしくなりにけるかな」

うれしくもまうでつるよ」と聞こゆるに、新院の霊なることをしりて、地にぬかづき涙を流していふ。「ざりとていかに迷はせ給ふや。濁世じやくせを厭離えんりし給ひつることのうらやましく侍りてこそ。今夜の法施に随縁したてまつるを、現形げんぎやうし給ふはありがたくも悲しき御ころにし侍り。ひたぶるに隔生あやうくやうくまう即忘して、仏果円満の位に昇らせ給へ」と、情をつくして諫め奉る。

新院からからと笑はせ給ひ、「汝なんぢ知らず、近來の世の乱れはわがなすわざなり。生きてありし日より魔道にこころざしをかたふけて、平治の乱をおこさしめ、死してなほ朝家に崇りをなす。見よ見よやがて天が下に大乱を生ぜしめん」といふ。西行この詔に涙をとどめて、「こは浅ましき御ころばへをうけ給はるものかな。君はもとより聡明の聞こえましませば、王道のことわりはあきらめさせ給ふ。こころみにたづね申すべし。そも保元の御謀叛は天の神の教へ給ふことわりにも違はじとておぼし立たせ給ふか。又みづからの人欲よりたばかり給ふか。詳にのらせ給へ」と奏す。その時院の御けしきはらせ給ひ、「汝聞け。帝位は人の極みなり。もし人道より乱すときは、天の命に應じ、民の望みにしたがふて是を伐つ。そもそも永治の昔、犯せる罪もなきに、父帝の命をかしこみて、三歳の体仁に代をゆづりし心人欲深きといふべからず。体仁早世ましては、わが皇子の重仁こそ国しらすべきものと、われも人も思ひをりしに美福門院が妬みにさへられて、四の宮の雅仁に代をうばはれしは深き怨みにあらずや。重仁国しらすべき才あり。雅仁何らのうつは物ぞ。人の徳をえらばずも、天が下の事を後宮にかたらし給ふは父帝の罪なりし。されど世にあらせ給ふほどは孝信をまもりて、ゆめ色にも出さざりしを、かくれさせ給ひてはいつまでありなんと、たけきこころざしをおこせしなり。臣として君を伐つすら、天に應じ民の望みにしたがへば、周八百年の創業となるものを、ましてしるべき位ある身にて、牝鶏Dの晨あしたする代を取つて代はらん、道を失ふといふべからず。汝家を出て仏に淫し、未來解脱の利欲を願ふ心より、人道をもて因果に引き入れ、堯舜甲の教へを釈門に混じてわれに説くや」と、御声あららかにのらせ給ふ。

西行いよよ恐るる色もなく座をすすみて、「君がのらせ給ふ所は、人道のことわりをかりて欲塵をのがれ給はず。遠く唐土をいふまでもあらず。皇朝の昔菅田の天皇、兄の皇子大鷦鷯ささきの王をおきて、末の皇子菟道うぢの王を日嗣ひつぎの太子となし給ふ。天皇かみがくれ給ひては、兄弟相譲りて位に昇り給はず。三年をわたりてもなほ果つべくもあらぬを、菟道の王深く憂ひ給ひて、「あに久しく生きて天が下をわづらはしめんや」とて、みづからよはひを断たせ給ふものから、やんごとなくて兄の皇子御位につかせ給ふ。これ天業を重んじ孝悌をまもり。まことをつくして人欲なし。堯舜の道といふなるべし。本朝に儒教を尊みて専ら王道の助けとするは、菟道の王、百濟の王仁を召して学ばせ給ふをはじめなれば、この兄弟の王の御心ぞ、やがて唐土の聖の御心ともいふべし。

また「周のはじめ、武王ひとたび怒りて天下の民を安くす。臣として君を弑すといふべからず。仁をぬすみ義をぬすむ、一夫の紂を誅するなり」といふ事、孟子といふ書にありと人の伝へに聞き侍る。されば唐土の書は經典、史策、詩文にいたるまで渡さざるはなきに、かの孟子の書ばかりいまだ日本に來たらず。この書を積みて來たる船は、必ずしも暴風にあひて沈むよしをいへり。それをいかなる故ぞと問ふに、我が国は天照大神の開闢はつぱくしろしめしより、日嗣の大王絶ゆる事なきを、かく口賢しき教へを伝へなば、末の世に神孫を尊うて罪なしといふあだも出づべし、八百よろづの神のにくませ給うて、神風を起こして船を覆し給ふと聞く。さればかの国の聖の教へも、ここの国土にふさはしからぬことすくなからず。かつ詩にもいはざるや、「兄弟内にせめぐとも外の侮りをふせげよ」と。さるを骨肉の愛をわすれ給ひ、あまつさへ一院かみがくれ給ひて、殯もがの宮に肌膚みはだもいまだ冷えさせ給はぬに、御旗なびかせ弓末ふり立て御位をあらそひ給ふは、不孝の罪これよりはなだしきはあらじ。天下は神器なり。人のわたくしをもて奪ふとも得べからぬことわりなるを、たとへ重仁王の御位は民の仰ぎ望む所なりとも、徳をしき和をほどこし給はで、道ならぬみわざを

もて世を乱し給ふ時は、昨日まで君を慕ひしも、今日はたちまちあだとなりて、本意をも遂げ給はで、いにしへより例なき罪を得給ひて、かかる鄙ひづの国の土とならせ給ふなり。ただただ古きあだを忘れ給ひて、浄土にかへらせ給はんこそ願はまほしき歎なげ慮なれ」と、はばかりことなく申しける。

(上田秋成『雨月物語』より)

注 法施に随縁したてまつる…仏縁にあずかるように菩提を弔う経文を唱えること

隔生即忘…この世を去って、妄執を忘れ去ること

晨する…鳴いて朝を知らせること

誉田の天皇…応神天皇のこと 日嗣の太子…皇太子のこと

紂…中国の殷の最後の王。名君の典型「堯・舜」と対照的に、「紂・桀」は悪王の代表とされる。

開闢…天地を初めて開くこと 殯の宮…本葬前に棺を安置しておく仮の御殿

問十一 傍線部 A「の」と文法的に同じものとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ このごろ世にあらむことの少し珍しく眠たさ醒めぬべからむこと、語りて聞かせ給へ

ロ この国の博士どものかける物も、いにしへのはあはれなる事おほかり

ハ 川風の涼しくもあるか、うち寄する波と共にや秋は立つらむ

ニ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり

ホ 河のも海のもこと物ども長櫃に荷なひつづけておこせたり

問十二 傍線部 B の和歌は、ここでは崇徳上皇が詠んだという設定になっているが、元々は西行の歌である。西行の歌を収めた書物として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 古今和歌集

ロ 山家集

ハ 金槐和歌集

ニ 後撰和歌集

ホ 懷風藻

問十三 傍線部 C「あきらめさせ給ふ」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 明らかにしようとなさっている

ロ お諦めになつていらつしやる

ハ よく承知していらつしやる

ニ 諦めさせようとなさっている

ホ わきまえようとしておられる

問十四 傍線部D「牝鶏の晨する」とあるが、本文中では誰のふるまいを指しているか、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 父帝
- ロ 重仁
- ハ 四の宮の雅仁
- ニ 体仁
- ホ 美福門院

問十五 傍線部E「あに久しく生きて天が下をわづらはしめんや」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 兄より長く生きること、天の意志を背くようなことがあつてはならない
- ロ なぜ長く生きるのだろうか、天下の人々を心配させるだけではないか
- ハ どうして永久に生きること、天下の命運を狂わせるのだろうか
- ニ 兄が長く生きることによって、天下の騒動になつてはならない
- ホ どうしてこれ以上生きながらえて、天下の人々に迷惑をかけられようか

問十六 傍線部①から⑤までの敬語の内、敬意の対象が異なるものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ①わすれ給ひ
- ロ ②冷えさせ給はぬ
- ハ ③世を乱し給ふ
- ニ ④ならせ給ふ
- ホ ⑤かへらせ給はん

問十七 本文内容と合致するものとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 崇徳上皇は、魔道に心をよせて、死後も皇室に崇りをなして保元の乱を引き起こした。
- ロ 西行は、崇徳上皇が抱いている怨みは、人道にのつとつた正当なものだと考えている。
- ハ 『孟子』を日本に持ち帰ろうとした船は、八百よろずの神によって妨げられていると伝えられる。
- ニ 崇徳上皇は、自らのふるまいを、武王を討つて周の国を創立した功績になぞらえている。
- ホ 西行は、父鳥羽上皇に対して反乱を起こした崇徳上皇のふるまいを、この上ない不孝と考えている。

問十八 以下の漢文は傍線部甲「堯舜の教へ」に関わる王道、人道を反映した逸話である。これを読んで、あとの問いに答えよ。(設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。)

舜年二十、以孝聞。三十而帝堯問^ニ可用^ヲ者。四岳咸^ニ薦^{メテ}虞舜^ヲ曰^ク、A。於是^ニ堯乃^チ以^ニ二女^ヲ妻^レ舜^ニ、以^テ觀^ミ其^ソ内^ヲ、使^メ九男^ヲ与^ニ処^セ、以^テ觀^ミ其^ソ外^ヲ。舜居^リ二嫫^ヲ、内^ニ行^{カウ}弥^ミ謹^ム。堯二女^ヲ不^レ敢^テ以^テ貴^ク驕^ク、事^{ヘテ}舜親戚^ニ、甚^ダ有^リ二婦道^ヲ。堯九男^ヲ皆益^ミ篤^ク。舜耕^ス二歷山^ニ。歷山之人^ハ皆讓^ル畔^ヲ。漁^ス二雷沢^ニ。雷沢、雷沢^ニ。人皆讓^ル居^ヲ。陶^ニ河濱^ニ。河濱、器皆不^レ苦^ク窳^ク。一^ニ年^ヲ而所居^ル成^シ聚^シ、二^ニ年^ヲ成^シ邑^ヲ、三^ニ年^ヲ成^シ都^ヲ。

〔司馬遷『史記・五帝本紀』より〕

注 四岳…四方の諸侯を管轄する長官。 虞舜…舜を指す。 虞は国名。

嫫汭…嫫水の流れが巡る内側のあたり。 川のくま。 歷山…山の名。 雷沢…沢の名。 陶…陶器を作る。

苦窳…壊れやすく形がいびつなこと。

(I) 空欄Aに入る最も適切な漢字一字を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 所
ロ 以
ハ 可
ニ 則
ホ 非

(II) 傍線部ア「不敢以貴驕」は、「あへてたつときをもっておごらず」と訓読する。この訓読に合致した返り点の付け方として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 不^ニ敢^テ以^テ貴^ク驕^ク
ロ 不^レ敢^テ以^ニ貴^ク驕^ク
ハ 不^レ敢^テ以^レ貴^ク驕^ク
ニ 不^ニ敢^テ以^レ貴^ク驕^ク
ホ 不^ニ敢^テ以^レ貴^ク驕^ク

(III) この漢文の主旨を踏まえ、傍線部イ「一年而所居成聚、二年成邑、三年成都」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人々は舜の誠実な人柄に感化されたので、集落が都市になるほど舜の徳を慕って集まってきた。
ロ 人々は舜が帝の堯に目をかけられたので、舜の住む集落が都市に発展すると期待して集まってきた。
ハ 人々は舜に農耕や漁業や作陶の技術を教わったので、集落が都市になるほど財政が豊かになった。
ニ 人々は舜が帝の娘や息子を従えているので、舜の権力に引かれて集落が都市になるほど集まってきた。
ホ 人々は舜が農作物や魚を分け与えてくれるので、集落が都市になるほど舜を慕って集まってきた。

〔以下 余白〕